

和田地域かわら版

【発行】周南市 企画部 施設マネジメント課

和田支所・市民センターの整備に関する意見交換会を開催

令和3年7月6日に、和田小学校体育館で、和田支所・市民センターの整備候補地に関する意見交換会を開催しました。

当日は、約40名のご参加があり、藤井市長から整備に向けた考えを説明させていただき、地域の皆様からご意見を伺いました。



市長からの説明

● 地域の拠点施設整備で重視する点

① 『防災上、求められる安全・安心』

- 近年、自然災害が頻発し、激甚化の傾向にある
- 市は、市民の安全・安心を守るため、防災に大きな責任を負っている
- 市として、「今まで何も起こらなかったから、これからも大丈夫だろう」という考えはできない

これらのことから、

- ◇ 安全・安心な避難場所となりえること
- ◇ 地域内外からのアクセスに優れ、応急対策や復旧の拠点となりえることが望ましい

② 『地域における将来のまちづくり』

- 地域振興の核となり、地域の文化創造・交流・福祉・産業振興など、
- ◇ まちづくりの中心として多面的な可能性を持っていることが望ましい
- 地域の皆様のご意向を最大限に尊重し、地域づくりに貢献でき、地域の未来に向けた大きな可能性を秘める施設にしたい

● 米光エリア（国道376号沿線）を整備候補地として提案した理由

前述の地域の拠点施設整備で重視する点 ① ②に加えて、

- 現在地より広い敷地を確保することで、バリアフリーに最大限配慮した設計が可能となる
- 通行量が多いことから、そこを通られる方々のニーズに沿ったビジネスチャンスを活かし、休憩所のような機能も付設できる等のメリットがあるため

● おわりに

- 和田地域の歴史的な背景や地区毎の役割は、十分認識している
- 支所・市民センターは地域の拠点であり、その整備場所は、地域の皆様にとって大変重要で、非常に大切な問題
- 将来の和田地域のこと、これからの地域を担う子供たちのことを考えて検討してほしい

参加された皆様からのご意見（要旨）

※（ ）内は、市による注記です

- ≫ ハザードマップが出たことによって、突然4候補地（現市民センター、和田自治会エリア南側、米光国道376号沿線、米光住宅地内）の提案があった。突然、災害に（話が）移っていることがよく分からない。これでは防災センターを建てるというようなものではないか。防災も確かに大切ではあるが、公共施設は、防災のことだけではない
- ≫ 防災だけでなく、教育・福祉・コミュニティーセンター・コミュニティーなども大変大きい。防災もみんな検討した上で、第一候補地が「和田（埴・夏切）エリア」となった。こうなった中には、318人のアンケートの意見がある
- ≫ 今の市民センターは、イエロー（土砂災害警戒区域）だが、（災害への）整備をして、拠点にしていくというのがみんなの思い
- ≫ 和田は中山間のモデルになる。地勢・歴史を考えると、集えるのは和田
- ≫ 子供が生きるということは、地域の中で大人が子供に顔を入れないといけない
- ≫ モデル事業となったのは、行政と地域住民と一緒に考えて、ということ。そういった意味で、今言ったことも理解してもらいたい

- ≫ 第一候補地が、和田エリアとなっている。災害を気にされると、中学校の場所に新築ということは、当然できないと思うが、中学校を利用することも考えられるのではないかと。鉄筋コンクリートの2階建ては、3年5年（で使えなくなる）ということはないと思う

（裏面に続きます）

- » 『公共施設再配置計画』には、既存の建物を活用したり、利用したりという基本的な考え方があり、本市の身の丈に合った政策を進めていきたいと書いてあった。その中には、中学校が廃校になるという考えは入っていなかった。その後、廃校となり、防災だけがクローズアップされた。お金・人口の減少の問題、和田地区そのものをどうしていくか
- » 米光は、『農業振興地域整備計画書』で、優良農地としての現状用途の土地利用を図るとある。農業振興地域の水田は、勝手に売買できない。ビジネスチャンスは生まれないと思う。農業系のことも整理しないと、田んぼの中に支所がポツンとあって、それで本当に使い勝手がいいのかということ

- » 市長の説明は、結論ありき。施設整備の考え方で3点言われたが、安心・安全、どこかの安心・安全を確保するのか。アクセス、日常的なアクセスは、その地域の生活に密着しなければならない。まちづくりの中心、米光は、農業振興地域であり、ぼんぼん建物が建つとは考えられない。誠に真実味がない
- » 地域に住んでみて、地域がどういうところなのか、しっかり考えた上での話し合いなら、13回も協議された「プロジェクトW」は、どこに生かされているのか
- » 防災ハザードマップは、金科玉条か。強制力を伴う、一切口出しはならないものか。洪水ハザードマップは、48時間で508mmとあるが、想定外はありえないとすると、600、700、800とこうなってしまう。何を根拠に508mmにしたかも分からない。5m水位が上がるといふことなら対応できる嵩上げをするのも案
- » 明治22年に、和田村ができて以来、ここが中心。地域の暮らしがどういうものかしっかりと考え、それを一気に移すことが、どれほどの痛みを伴うのか、しっかりと考えていただきたい。まだまだ時間がある
- » 今日の説明も理解はできるが、決して同意できるものではない。同意ができないものを提案されても、平行線になる。結論は出ない

- » 和田地区で一番の課題は避難所がないこと、との意見があったと市長が言われたが、その意見を言ったのは私。以前、線状降水帯が和田に来ると思ったときがあった。もし、ここに来ていたらどういう状況だったかと、非常に恐ろしいと思った。避難場所やそういったものは、防災が一番考えないといけないもの
- » 洪水ハザードマップの内容を、もう少しいろいろな形で説明すべき。皆さんが分かりやすいのは、〇〇(店舗名)の方からドーンと氾濫流が来るというハザードマップになっている。そういったことで、ここ(和田エリア)が本当に安全なのか、これはいけないな、(支所が)ここであるべきではないと感じた
- » 今、ここに造るべきか。高瀬・和田地区が寂れるという残念なことにつながるかもしれないが、歴史は変わる。地域も以前より変わっている。30年、50年先の選択を間違っただけではない。市長が言われた多機能の可能性を、土地利用をきちんとすれば、国も動かすことができると思う

- » 米光地区の意見もある。米光は人口から見ると多い
- » 熱海の水害を思うと、建物を建てる場所は、すごく重要だと感じている
- » 今の建物を利用する手もあるし、市の財政などもあるだろうが、次の世代、何十年先を思うと、できたら新しい、緊急時には安全な耐震のある防災の叶った建物を希望する。コミュニティが必要なら利用して、防災なら防災。今のことを思うと防災の安全な建物が大切
- » 米光団地も人数が少なくなっているが、団地なら、また若い人が集まってくる可能性もあると思う。もしかしたら、過疎化していくのではなく、発展の希望がある場所に希望のある建物を望む

- » そもそも、公共施設再配置の観点から議論が始まった。場所をどこにするかや、ハザードマップが出たりして、議論がずれ始めてきた
- » 使われていない施設の廃止や統合を話し合っ、その中で中学校の活用という意見が出た。ずっと聞いてきて、中学校の跡地を活用することが良いのではと思っていた
- » 防災、安全・安心ももちろん大事、それと同時に、地域住民の拠点でなじみの場所、かけがえのない日常の集う場所も非常に重要。長年親しまれてきた中学校は、愛着がある場所だと思う。米光が、沿線上にあるので行きやすくなるというのは疑問
- » 川が近くにあり、有事の際には、さらに避難をしなければならない状況の際には、和田独自の防災体制を確立したらどうかとも思った。いわゆる率先避難
- » どうしても警戒区域が駄目なら、埜地区の安全な所に求めるべき。和田地区の中心部に支所・市民センターがあるというのは住民の一つの思い。ここをもう少し検証するのも良いのではと思った

- » 教職員住宅が、廃屋のまま残っている。支所・市民センターや中学校も廃屋で残るのでは、と非常に心配している
- » 新しいものを造るのはいいことかもしれないが、使われなくなったものをきれいにして、それから米光に中心を移すのであれば、住民もある程度は仕方がないと思うかもしれない。検討してほしい



今後は、いただいたご意見を踏まえ、しっかりと協議した上で、市としての方向性を改めてお示しします。

【問合せ】

周南市 企画部 施設マネジメント課
 電話 0834-22-8202
 メール shisetsu@city.shunan.lg.jp